

ACUMMO

整 形 外 科 と 鍼 灸

NO. 6 2017

編集部「お二人はなぜ整形外科医を目指したのですか？」
 磐田振一郎先生（以下、磐田）「友人の影響を受けて医師を志しました。その影響を与えてくれた友人は、結局医師にはならなかったのですが（笑）。整形外科医というのは、医師の仕事の中でも治せる仕事だと思い目指したのですが、実際になってみると、治すことは程遠く、正直、痛みに対しては湿布

現代医学では痛みに対する治療がない？」

足元のものを取ろうとして突然ぎっくり腰になったり、階段の昇降時のふとした瞬間に膝が痛くなったり、腰痛・膝痛に悩んでいる方は非常に多くいらっしゃいます。今回のACUMMOでは、腰痛・膝痛に精通するスーパードクターのお二人にお話を伺いました。一人は膝の人工関節手術を専門とする整形外科医で、NPO法人「腰痛・膝痛チーム医療研究所」理事長の磐田振一郎先生、もう一人は腰を専門にしている同NPO法人副理事長で「久我山整形外科ペインクリニック」院長の佐々木政幸先生です。お二人ともに、医療の裏側までぎっくばらんに話していただきます。



佐々木先生（左）は久我山に整形外科医院を開院、磐田先生（右）は膝の専門家として手術などに携わりながら東西医療を実践する病院をプロデュース。共に理想の医療を求め切磋琢磨している。

と注射をするくらいしか手段がないというのが現状でした。」
 佐々木政幸先生（以下、佐々木）「僕は磐田のようにかっこいい理由ではありません。スーパーカーが好きで、若いときに連れて行ってもらったツーリングで、スーパーカーに乗っていたのはほとんどが医師や弁護士でした。そうか、医師になったらかっこいいスーパーカーに乗れるのか！と思って医師を志しました（笑）。整形外科医を目指したのは、磐田と同じように、痛みに対して直接治療ができて、やりがいのある仕事だと思ったからです。しかし現実とは違い、手術をせずに痛みを

整形外科医は、他の治療をさせるなど教育される
 編集部「鍼灸には療養費という形で保険制度による施術を受けることができ

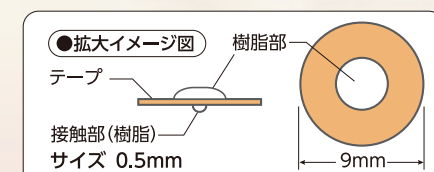
取り除くことはなかなか難しく、腰痛に関して言えば、ほとんどの腰痛はなぜ痛いのかわかりません。痛みに対して整形外科医としてできることは非常に限られています。でも世の中には様々な治療で腰痛がよくなっている患者さんが実際にいる。磐田と同じように、みんな考えればもっといい医療を患者さんに提供できるのではないかなと思っていました。」
 磐田「医学的にわからない痛みに対して、どうしたものか困っていました。鍼灸やマッサージ、ストレッチ、サプリメントに、磁気や電気を用いた治療など、腰痛・膝痛に対して世の中には実に様々な治療方法があふれています。が、患者さんほどの治療が自分にあっているのか分かりませんし、僕も他の治療が何に効くのか分かりませんでした。患者さんに対してより良い医療を提供するためには、治療に係る色々な立場の人間が同じ土俵に立って考えていく必要があると思います、NPO法人の設立に至りました。」

SEIRIN®
Made in Japan

お疲れ気味の全ての女性に
 家事に仕事にお疲れさま
 あなたの毎日の疲れにピタッとひとりはり
 初めての方でも簡単にお使いいただける親切設計で
 ツボを優しく刺激して、こりを緩和
 さあ、明日もまた頑張りましょう



はりが苦手な方にも、抵抗なくご使用いただけます。



目立たない！

テープ径が9mmと小さいのでかぶれにくく目立ちません。

※効果には個人差があります

使い方も簡単！

シールを剥がすだけで簡単に貼れます。一枚のテープに樹脂を固定しているので、接触部が取れる心配はほとんどありません。

肌に優しい！

接触部が樹脂になり、金属アレルギーの方にもご使用いただけます。



家庭用貼付型接触粒 医療機器届出番号: 22B1X00006000005

粒のちからでこりを緩和！
 スポットと

製造販売業者

SEIRIN
— ISO 13485認証取得 —

〒424-0037 静岡県静岡市清水区袖師町1007-1
 TEL.054-365-5700 / FAX.054-365-5139
<http://www.seirin.tv> セイリン 検索

ますが、医師に同意書という書類を書いてももらわないと保険にかかれません。この同意書を書いてくれない医師が増えていると感じていますが、そのことについてお二人はどのように考えていますか？」

磐田「実際に患者さんが整形外科医に他の治療について相談すると、やめた方がいいという医師がまだまだ多いのではないかと思います。鍼灸の場合ですと、医師の同意書があれば保険で施術にかかれる仕組みになっていますが、こういう制度を若い医師は知らない。病院で患者さんから同意書の相談を受けても先輩の医師からは、そんな書かないほうがいいと指導される。僕もそのような経験が実際にあります。実は若い医師たちは、そんな風に教育されるので、断るのが当たり前だと理解しているのです。」

佐々木「でも医師の立場としては、目の届かないところで自分たちの知らないことが行われていることについての恐さがあるのだと思います。医師の教育現場や学会の立場としては、患者さんの安全を担保しなければならぬので、そうすると紋切り型に他の治療はしない、という選択肢を取らざるを得ないのかもしれない。」

世論から医療を変えたい

編集部「患者の安全、医師からしたら

当たり前の考えなのかもしれないですね。私たち鍼灸師が怪しいものではないということをもっと知っていただけるよう努力しないといけないですね（笑）。先生方はそのような状況にどうアプローチしようとお考えでしょうか？」

磐田「現在の医療制度の中で医療技術として認められるには、いわゆるエビデンスが求められます。わかりやすく言うと、効くという証拠があるということでしょうか。鍼灸を例に挙げると、効くという明確な根拠がないから、医療制度の中で取り扱うことができないということなんです。では保険点数に収載されている薬剤がすべて医学的根拠のあるものかという点、実はその過程で効果機序が明確でないものもあるわけです。西洋医学ではない治療手段だけに、やたらとエビデンスが求められるのはフェアではないなと。しかしながら、医師の世界が先ほど述べたような状況なので、これは医療の制度といった枠組みを変えてあらたな形をつくるというのは非常に困難だなということに実感していました。ですので、他にも治療手段はあるということを経世の中に発信していくことで、患者さんに伝えることもNPO設立の目的です。患者さんがより良い治療手段の提供を求めれば、医師の考え方や医療の仕組みも変わらざるを得ないと思います。」

佐々木「10年くらい前だったでしょう

しますが、検査結果に基づいて治療の方法を決めているわけではありません。あくまで患者さんの痛みの程度で決めています。したがって、痛みの程度の軽いものであれば、侵襲の低いものから始めていけばいいでしょう。膝痛の場合ですと、気になるけど日常生活には支障のないような場合は、湿布や塗り薬などの外用薬ですし、階段を降りるときなど、いつも一定の動作で痛みを感じるような場合は、外用薬に加えて膝への注射を行います。痛み止めなどの内服薬は、動作中の痛みにはあまり効果がないケースが多いので、おすすめています。日常生活に支障をきたしているようになると、注射の頻度を増やし、家事などの基本的な日常生活動作が困難な場合は手術を検討します。このように手術は最後の手段となるので、それまでは鍼灸はもちらんのこと、色々な治療法を試してみる価値は十分にあると思います。ただし、効果が見られない場合は変えたほうがいいでしょうね。個人的には2、3ヶ月が目安と考えていますが、患者さんのことを考えてくれている医療従事者であれば、治療の計画についても説明してくれるはずです。鍼灸治療の場合だと、どのタイミングでも有用なものではないでしょうか。痛みの原因を心身のバランスに求めそこへアプローチすることもできますし、膝の変形が

進んでしまったような場合でも、変形自体は治すことができなくても、それに伴う筋の拘縮を改善したりすることで症状を緩和させることができるんですよ。」

佐々木「腰痛もそうですよね。画像検査の結果と症状があわないケースは山ほどあります。ただ、腫瘍や内臓からくるもの、神経障害の程度がひどいケースがあるので、それらが除外された状況であれば鍼灸を含め色々試してもらいたいですね。逆にいうと、鍼灸師さんを始め、危ない腰痛かどうか察知できる医療従事者の方々であれば、ひとまず試していただいて良いと思います。」

整形外科領域における、これからの医療

編集部「先日、ある学会に参加してきましたが、新薬の開発や治療機器の発展で大変盛り上がっていました。医療は日進月歩であることを実感しています。東洋医学で謳われる病気そのものではなく病人を治す、という考えが西洋医学の医師の中でも広がってきているとお聞きしています。今後の整形外科領域での医療はどのようなになっていくのでしょうか？」

佐々木「痛みについていえば、痛みそれ自体の研究は進んでおり、『痛みを訴える人』に対する認知の仕方が変わっ

か、サプリメントが登場したとき整形外科医たちは大ブーイングでした。でも今はなんとなく溶け込んでいる感じがありますよね。色々な治療を適切な形で選択できるような世の中が来るようにしたいですね。」

整形外科医から見た鍼灸

編集部「実際にNPOを設立されて、色々な治療の立場の方々とコミュニケーションを取られるようになってから、医師以外の職種に対するイメージはいかがでしょうか？」

磐田「そうですね、皆さん非常に勉強熱心で患者さんをなんとかしたいと考えている方々ばかりだなと思いました。少なくとも僕がこれまでお会いした鍼灸師の方々に対しては医師として不安があるなどということは全くありません。現在勤務している渋谷のクリニックでは鍼灸院も併設しているので、カルテのやりとりもまったく問題ありません。腰痛の患者さんは結構な割合で送るようになってますね。僕も実際に腰痛になってしまったのですが、実はこのとき人生で始めて鍼治療を受けました。30分の治療一発で治ってしまったことにはあらためて感動しましたね。渋谷のクリニックに関しては、併設の鍼灸院がもっと有名になってほしいです。患者さんからしてみれば、あれ、整形外科も一緒にあったん

てきていますが、そういった考え方はまだまだ現場の末端まではいきわたっていないと思います。でもここからは早いでしょね。整形外科の医療ということだと、まだ詳細は言えないのですが、ここでも新薬の開発により今後数年で劇的に変化していくと思います。患者さんにとつては、いい状況になっていくでしょうね。僕らのような開業整形外科医は苦しくなると思っています（笑）。」

磐田「新薬の開発に加え、手術に変わリそつなものといえば再生医療でしょう。整形外科領域でも患者さんに届くようになるでしょう。整形外科医としての引き出しを増やしつつ、時代に対応しながら患者さんにバストなものを提供できる仕事をしたいです。」

整形外科専門医から見た鍼灸を赤裸々に語って頂きました。腰痛・膝痛でお困りの方、是非諦めないで頂きたいです。磐田先生、佐々木先生、大変お忙しい中どうもありがとうございます！

発行：公益社団法人神奈川県鍼灸師会
〒233-10000
横浜市中区海岸通4丁目21番
倉田ビル5階
電話 F.A.X.: TEL 045-226-8946
FAX 045-226-8079
http://kanagawa.harikyuu.or.jp/
発行日：平成29年1月15日

だ、くらいのレベルが理想ですね。」

編集部「ほっとしました（笑）。では佐々木先生は鍼灸や鍼灸師に対してどのようなお考えですか？」

佐々木「最近では、慢性腰痛の原因は脳の痛みに対する記憶である、ということも言われていて、脳を治してくださいという患者さんもいらっしゃると思います（笑）。西洋医学的に説明のできない症状に対しても、鍼灸を始め東洋医学では説明できるところがいいところですね。患者さんの状態を説明してあげることがとても大事だと思います。納得して帰してあげることが僕の外来でも心がけておりますが、鍼灸の場合だと、さらに治療にも結びつけることができますよね。僕のクリニックでも鍼灸師の方がスタッフで在籍していたことがありますが、やはり西洋医学的な治療で効果なくても鍼灸が効いたということも多々ありました。」

腰痛・膝痛の方、鍼灸をやってみて下さい

編集部「うれしいですね。なんかで過ぎなお話の気もしますが（笑）。先生方とお仕事をなさっている鍼灸師はきつと優秀なスタッフなのでしょう。具体的には患者さんは膝痛・腰痛のどのタイミングで鍼灸を活用すると良いとお考えでしょうか？」

磐田「まず整形外科的治療全般の話を



磐田振一郎先生

【経歴】1971年東京都生まれ。1996年慶應義塾大学医学部卒業、同整形外科教室入局。2004年スタンフォード大学客員研究員、2009年NPO法人腰痛膝痛チーム医療研究所設立、同理事長【資格】医学博士、日本整形外科学会認定整形外科専門医、日本整形外科学会認定整形外科専門医、日本タイエット協会認定タイエット指導者【学会】日本整形外科学会、日本関節学会



佐々木政幸先生

【経歴】1970年東京都生まれ。1995年昭和大学医学部卒業、1996年慶應義塾大学医学部整形外科教室入局。2009年NPO法人腰痛膝痛チーム医療研究所副理事長、2010年久我山整形外科ペインクリニック開院【資格】日本整形外科学会認定整形外科専門医、脊椎脊髄病医、スポーツ医、運動器リハビリテーション医、日本脊椎脊髄病学会認定 脊椎脊髄外科指導医【学会】日本整形外科学会、日本脊椎脊髄病学会、日本腰痛学会、日本関節運動学的アプローチ医学会